

## II - A - 12

## 老人性骨粗鬆症に対する牛車腎気丸の効果

中勢総合病院 整形外科

○大萱 稔, 館 靖彦, 稲田 均, 園田 潤, 日沖甚生

【目的】近年高齢者の腰痛のなかで、骨粗鬆症が注目されている。本症は骨量の減少が加齢とともに生じ症状を発生する。また合併症としての大腿骨頸部骨折や脊椎圧迫骨折の危険性が言及され、寝たきりとか痴呆の原因になることが多いなど臨床医学にとって極めて重要な疾患と考えられる。本症の治療は腰痛に対する治療が必要であり、消炎鎮痛剤(NSAIDs)が使用され、また長期間の治療が予想される。しかし高齢者にとってNSAIDsの副作用(胃腸障害、腎障害、浮腫など)が問題である。そこで今回鎮痛効果をもつ、漢方医学的に高齢者の腰痛に適応される牛車腎気丸を用いてその臨床効果について検討した。【方法】厚生省の骨粗鬆症診断スコアが4点以上を示す症例、61才から84才の50例(男19例、女31例)であり、ツムラ牛車腎気丸1日7.5gを投与した。その投与期間は6ヶ月より2年未満が25例で、2年以上5年未満が25例であった。症状(背腰痛と日常生活の障害)を投与後9ヶ月、2年との両群で検討した。また骨量(第3腰椎のQCT法によるCaCO<sub>3</sub>値)の変化についても検討した。従来から併用しているビタミンD<sub>3</sub>、カルシトニンは継続投与とし、NSAIDsは原則として使用しなかった。【結果】症状の推移では背腰痛の改善が、9ヶ月後、2年後とも認められた。日常生活の障害でも投与後9ヶ月、2年ともかなりの改善が認められ、背腰痛に比しより有効であった。また長期投与(2年以上)でより効果的であった。QCT法による骨量の変化は、牛車腎気丸の併用群8例と非併用群8例とを投与後6ヶ月、1年で比較検討し、併用群に骨量の増加傾向が認められたが、両群間には有意差は認められなかった。副作用は胃腸障害が2例に認められたが継続可能であった。【考察】本症は漢方医学的には腎虚と考えられ、慢性期には腹証として臍下不仁を呈する寒虚証の牛車腎気丸証と思われる。本報告もこの様な症例を選択し、西洋薬と併用投与した。本方剤が腰痛の臨床症状の改善に有効であり、骨量の維持に貢献していると考えられる。また本症には腰痛の他に口渴、ほてり、冷え、しびれ、脱力感、むくみ、排尿障害など随伴症状がみられる。漢方治療ではこれらの症状を改善させることが可能である。漢方薬は作用機序の多様性が推察され、西洋医学との共存協力が可能であると考えられる。【結論】50例の骨粗鬆症に牛車腎気丸を使用して、腰痛の改善が認められ、その効果は、長期の使用でより顕著であった。